

# 糸賀の理念 学び合いへ



1968年に皆成学園を訪問し、講義終了後、関係者に両脇を支えられながら記念撮影に臨んだ糸賀（中央）。県内での最後の講義となった（同学園提供）

鳥取市出身で「障害者福祉の父」と呼ばれた糸賀（雄）（1914～68年）が設立した知的障害児入所施設「近江学園」（植田重一郎園長、滋賀県湖南市）と、糸賀の影響を受け設立された「皆成学園」（井上和之園長、倉吉市みどり町）が、約45年ぶりに交流を再開する。糸賀生誕100周年の節目に関係者は「互いの良い所を学び合いたい」と意気込む。

皆成学園（倉吉）

と 近江学園（滋賀）

## 45年ぶり交流再開

近江学園は戦災孤児 尾愛治鳥取県知事に障  
や知的障害児の療育施設 害児施設を具内に設置  
設として46年に設立。するよう勧め、西尾知  
糸賀は47年に当時の西 事は49年に米子市に  
「皆生学園」を設立。 待の未然防止や職員育  
51年には倉吉市に移転 成などの共同研究にも  
し皆成学園となった。 着手する。

「皆生学園」を設立。 待の未然防止や職員育  
51年には倉吉市に移転 成などの共同研究にも  
し皆成学園となった。 着手する。  
糸賀は当時、準備段階 30日の本会議では長  
から職員を近江学園に 谷川検見議の質問に対  
派遣。障害児と生活を し、平井伸治知事が「そ  
共にし、糸賀から直接、 れぞれ工夫の中で磨い  
実践方法や理念を学ん てきたノウハウを交換  
だ。両学園の交流は糸 することが重要」と意  
賀が亡くなるまで続け 義を強調。来年度は長  
た。 期の人事交流も検討す  
る。

交流再開は100周  
年記念事業を機に浮  
上。本年度は秋と冬に  
それぞれ3週間程度、  
指導員1人を相互派遣  
する。少人数単位で家  
庭的な生活を実践して  
迎。植田園長は「全国  
いる近江学園、障害児  
の自立を目指す教育に  
力を入れる皆成学園  
とそれぞれの強み  
を学び合う。施設内  
い」と話している。